

平成 28 年度第 2 回 ISO/TC46/SC8 国内委員会議事録

1. 日時：平成 29 年 1 月 16 日(月) 14:00 ~ 15:00

2. 場所：文京シビックセンター 3 階 会議室 B

3. 出席者：委員

水嶋 英治	国立大学法人筑波大学(SC8 リーダー)
永田 治樹	国立大学法人筑波大学名誉教授
中井 恵久	国立国会図書館
小泉 史子	公益社団法人日本図書館協会
菅野 朋子	国立大学法人東京大学
戸田 あきら	文教大学学園
濱田 浄人	国立科学博物館
鈴木 加奈子	学校法人立教大学

事務局 光富 健一 一般社団法人情報科学技術協会
記録 鈴木 加奈子

4. 配布資料：『平成 28 年度第 2 回 ISO/TC46/SC8 国内委員会議事次第』

(資料 1-1) WG1「デジタルアーカイブ利活用のための記述に関する標準委員会」報告

(資料 1-2) WG2「国際図書館資料識別子に関する標準化委員会」報告

(資料 2) 平成 28 年度 ISO/TC46/SC8 投票案件 (平成 28 年 4 月 1 日 ~)

(資料 3) 【戦 24】デジタルアーカイブの利活用に関する国際標準化 成果報告[案]

5. 議事：

水嶋リーダーにより議事を進行し、各資料に基づき説明があった。

5-1)「平成 28 年度第 1 回 ISO/TC46/SC8 国内委員会議事録」を承認した。

5-2)議題 1「平成 28 年度実施計画進捗報告」(資料 1-1、1-2)

資料に基づき、以下のとおり事務局からの説明があった。

TC46 では平成 28 年度の経済産業省委託事業として、以下の 2 つの新規案件を提案している。それぞれの活動について進捗を報告する。

- ・「デジタルアーカイブ利活用のための国際標準化」(資料 1-1)については、2016 年 7 月に NWIP を SC9 事務局に送付、9 月より NP22038 の投票を開始した。(投票終了は 2017 年 1 月 29 日)また、Expert Nomination のための依頼メールも送付している。投票終了後、2 月に国際的なメーリングリストを立ち上げ、3 月新 WG 発足、9 月頃 CD 用原案完成の予定である。

WG1 の活動について、委員より、「デジタルアーカイブの利権確保と正確な把握のために国際標準を作る提案」である旨の補足説明があった。

- ・「デジタルアーカイブにおいて原資料を管理するための識別子」(資料 1-2)については、2016年7月にCD投票終了後、国際WGが発足、コメントを多く出したフィンランドとの協議も開始された。また、11月に開催された国内WG2でも対応策が検討された。2017年に入りDIS投票が開始、投票終了は5月となる。

WG2 の活動について、委員より「図書館資料番号などの固有番号と各館のIDをリンクさせて一意のものとして識別する提案」である旨の補足説明があった。

5-2)議題2「ISO/TC46/SC8国内審議」(資料2)

平成28年度の投票案件は、1件のみであった。

5-3)議案3「平成28年度成果報告について」(資料3)

資料に基づき、以下のとおり事務局からの説明があった。

- ・資料3の33～40ページに事業概要を示している。41ページ(赤字部分)からは前年の資料をそのまま掲載している。この部分については、宮澤委員長からの依頼により各SCリーダーが2月10日を目処に執筆中である。なお、付属資料については事務局が作成中である。その後、経済産業省に提出し承認を得たのち、三菱総合研究所に提出する。

成果報告について、水嶋リーダーより以下の通り補足があった。

- ・2016年12月27日、宮澤委員長らと会合を持った。その際、ISO/TR14873について内容を要約し、WG1及びWG2のサポート体制と併せて報告にまとめてほしいとの依頼があった。1月20日に報告の第1報を提出、2月20日が最終締め切りとなっている。TR14873については、ある程度まとまった段階でSC8のメンバーにも配信する予定である。

永田委員より、成果報告書[案]について、以下2点の指摘及び1点の確認があった。

- ・31ページ「目次 3.3.4 美術館・図書館・文書館質の向上の検討(SC8)」について、SC8では「質」ではなく、「品質」としている、この一文における「質」の係り方が不明瞭である。
 - ・「デジタルアーカイブ」という用語は国内では標準であるが、国際的には“Digital collection”が標準である。既に国内ではこの用語でWGでも活動しているが、国際的には使用できない用語である。
 - ・この報告[案]は現在の委託事業に関する報告書となっているが、従来の活動記録である「TS46の歴史的な歩み」としての報告書も作成する予定であるか。
- これに対し、水嶋リーダーより現在作成中の報告書を提出した後、5,6月頃を目処に従来

の形式の報告書も作成する予定であるとの回答があった。さらに委員より、その際は中井委員の対応している SC8/WG7「国立図書館のためのパフォーマンス資料」に関する案件についても記録に残してほしいとの依頼があった。

5-6)その他

宮澤委員長より問いかけのあった「各 SC で JIS を作成する予定」について、国際的な博物館統計(ISO/CD 18461)の JIS について確認してほうが良いのではないかと指摘が、永田委員よりあった。この件について、水嶋リーダーより以下の通り補足の説明があった。

- ・2015 年ユネスコ総会において、博物館に関する新しい勧告(Recommendation)があった。これを受けて 2016 年 ICOM 国際会議が開催され、その中で国際的な博物館統計に関する言及があったものの、国によってレベル差があり現状では作成が困難であると思われる。日本のように全国的な博物館協会組織のある国は少なく、インフラが整っていない状況である。
これに対し、委員より、JIS は国内規格であるから、博物館協会を含めて検討してほしい旨の指摘があった。

以上